

「民主政治危険な状態」

参院調査会 野中氏が首相批判

参議院の国の統治機構に関する調査会が19日、国会内であり、参考人の野中広務元官房



調査会で見解を述べる野中氏
(東京都千代田区・参院)

長官が、安倍首相の政権運営や集団的自衛権の行使容認の議論について、「与党協議や野党との議論が形骸化する」と、議会制民主政治が機能不全になるが、相当危険な状態だと批判した。

野中氏は「議会制民主主義は与党の政策実現は当然としても、野党の意見を取り入れることも期待されたい」と強調した。

質疑では、自民党的有村治子議員（比例代表）らが、民間の内閣官房参与による重要な政策への関与について質問。これに対し、靖

国神社参拝などを挙げ、「与党や国会の議論を形骸化する傾向がある。自分の思う方向へ行くことへの高揚感があり過ぎ、前途を誤らないか」と述べた。

集団的自衛権行使に関する共産党的倉林明子議員（京都選挙区）らの質問には、安倍首相が政府の憲法解釈に關し、「私が責任を持つていて」と国会答弁したことを批判し、「（革新系の）蜷川虎三（京都府知事のころ、「憲法を暮らしの中に生かそう」という垂れ幕があり、憲法の都合のいいところだけを生かしていると反論した。同じような危惧を持つやり方が行われている」と話した。（日山正紀）

京都新聞 14/2/20